

# 学校探検の具体例①

入学して間もない子どもは、学校の様々なことに興味津々です。対象と繰り返し関わることができるよう、単元や環境を構成することによって、施設の位置や特徴、役割だけでなく、そこにいる人の存在や働きなどに気付き、これからの生活に期待をもてるようになってほしいものです。

## ここがポイント

### 生き生きと活動できる構成に

学校の「もの」「ひと」との距離を近づけていくために、段階的に三つに分けて構成しました。

2年生との探検で、2年生のおすすめの場所を教えてくださいますが、一度見ただけではどこに何があるのか分からなくなり、改めて確

認する必要性が出てくるのが考えられます。「もっと見てみたい」という意欲を大切に、自分たちだけでの探検につなげていきます。



#### 【探検の段階】

- ① 先生と探検:探検のルールを知る
- ② 2年生と探検:上級生との関わり
- ③ 自分たちで探検(各階):  
「もの」「ひと」に関わる→技への気付き

## ここがポイント

### ちょこちょこ探検でウォッチング！

探検していくうちに、「この部屋は何をするところかな。」「これは何に使うんだろう」といった疑問が生まれます。そこで、「自分たちだけでは分からない。」と、特別教室を上級生が使用している時に、少しお邪魔することにしました。活動の様子をよく見たり、話を聞いたりすることで、

「家庭科室ってミシンで縫い物をするところなんだ。」「早くやってみたいな。」と、実感することができます。



ここが  
ポイント

見付けた情報は学級で共有！

校舎の白地図を階ごとに用意し、探検する度に子どもの発見したことを位置付けていきます。地図、写真、子どものカードなどを合わせてマップとして掲示することで、位置を認識するのが苦手な1年生でも、「ここにはこんなものがあったな。」と、情報を関連付けて考えることができます。

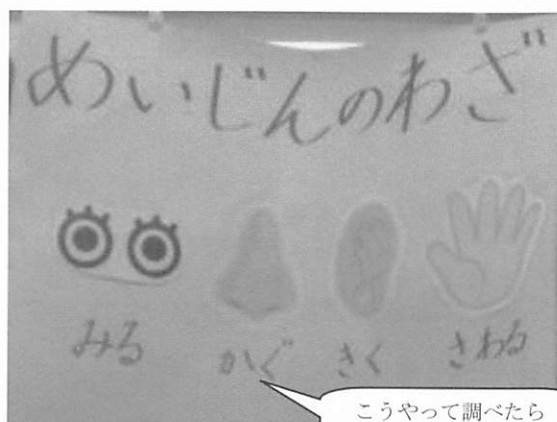
子どもの気づきをカードに  
価値付けます。



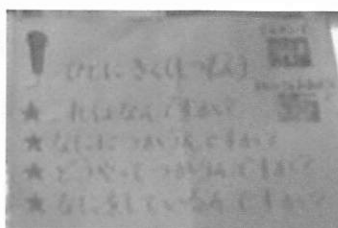
また、部屋ごとの発見を小さなカードに書きため、写真と共に掲示します。日常的に互いの情報を共有できるようにすることで、「休み時間にも探してみよう。」「〇〇君と同じことを見付けたんだ!」と、たくさんのことを発見した自分に気付いたり、友達の気づきにも目を向けたりすることにつながります。

目や耳、手触りなどの感覚を使って見付けてきた子どもの気づきから、「わざ」として価値付け、どんどん獲得し、試していけるように励ましていきます。

「わざを使ったら詳しく分かったよ。」「一人でも使えるんだよ!」と、繰り返すことで、自信をもって活動することができます。



こうやって調べたら  
よく分かったんだね。



くらべるわざ

かぞえるわざ